

## 第4回 立野小学校 授業研究会

### 講師

玉川大学 教師教育リサーチセンター	客員教授	八嶋 真理子	先生
西部学校教育事務所	主任指導主事	片桐 大樹	先生
南部授業改善支援センター	授業改善指導員	保科 泉	先生
筑波大学附属小学校	教諭	辻 健	先生

### 授業者 個別支援学級 藤原 梨花 伊藤 周平 日下 彩 生活単元・生活科／理科「いきものとなかよし」

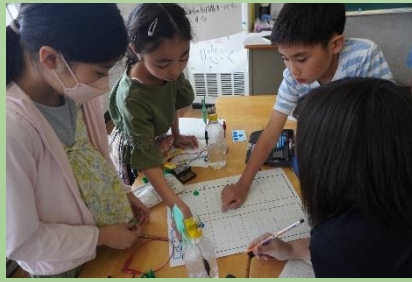


生活科の学習では、ダンゴムシが食べる物を調べ、実際に与えてみて、その食べ物を食べる様子を観察しました。チーズやキュウリ、イチゴを食べるか調べました。ダンゴムシへの愛着を高めるために、絵本を読み聞かせしたり、ダンスを踊ったりしました。マクロレンズとタブレットを活用し、ダンゴムシが食べている様子をより詳しく観察できるようにしました。「ダンゴムシさんは食べる時にあしでキュウリをもって、がつつ食べていたよ。」と体で実際に食べている様子を表現し、細かく観察する姿が見られました。

理科グループでは、一人ひとりが生き物を育て、育てる中で見つけた問題をそれぞれが解決する学習を行いました。「モンシロチョウの幼虫のからだのつくりは、どうなっているのだろうか。」という問題を見だし、予想をする子どももいれば、「ビオトープのメダカは何を食べているのだろうか。」という問題を調べるために、実際にビオトープの水を顕微鏡で観察する子どももいました。個人で問題解決をした後に、全体の時間として共有タイムをとり、お互いの活動を紹介し合ったことで、自分と友達の生き物を見比べ、共通点を見いだす姿が見られました。

講師の先生方からは、「個々のめあてに合わせて学習が進められ、個別最適化を意識した授業づくりができています。」「一人ひとりの実態や目標を細かく把握できるような、指導案作りができています。」と評価をいただきました。

## 授業者 4年2組 宮野 凌 生活科「電流の働き」



乾電池2個を並列につないだ時の電流の大きさは、乾電池1個の時に比べてどうなっているのかを実験、考察し、問題解決する授業を行いました。

本時の場面では、グループで確認しながら正確な結果を得ようとする姿や、前に行った実験とつなげて、「直列と並列では、直列の方が電流が大きい」と考える姿など、粘り強く問題解決する良い姿が見られました。

講師の先生からは、「実験の場面では、グループ内で結果を見比べたり、もう一度試してみたりと、よい関わり合いをしながら活動できていた。考察の場面では、前の実験結果もよく見ながら、つなげて考えることができていた。」と子どもたちへの評価をいただきました。

## 授業者 5年2組 佐々木 陽子 理科「振り子の運動」



振り子の重さを変えて、振り子が1往復する時間を計測したデータをドットプロットすることで、複数の班の傾向を比べて考察したことを表現して問題解決することができる授業をしました。

考察では、複数の班のドットプロットの結果を見比べたり、今までの実験結果と比較したりして理由を説明する子どもの姿がありました。学習のまとめとして「振り子の周期には長さの関係している。」ことを、音楽で学習している合奏曲に振り子の長さを変えて合わせてみる活動を行い、ふりこの周期についての確認もしました。

講師の先生からは「条件を揃えることを意識して友達と協力して正確に数値を導き出すことができているから、考察での思考も高まっている。」と子どもたちへの評価をいただきました。